

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590101176		
法人名	株式会社KSFカンパニー		
事業所名	グループホームPlus 青棟		
所在地	秋田市飯島字長山下15番		
自己評価作成日	令和5年12月30日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者を第一に考え、人としての尊厳を守り、寄り添った支援を心掛けています。  
 ・自宅で過ごしていた時のように、安心して日々過ごせるように努めています。  
 ・入居者・家族の立場に立ち物事を考えることにより、なにを求められているのかを模索しケアを行っています。  
 ・入居者一人一人が役割を持ち、生きがいを感じられるような生活の提供ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全室・壁・天井に調湿性能の高い漆喰を使用しており、自然の力で室内の空気環境を改善する等環境に配慮している。季節毎の行事にも力を入れており、青棟・春棟の両棟合同での運動会、こどもの日や母の日には装飾や特別なおやつを食べながらお祝いをしたり、夏祭り、花火、敬老会、クリスマス、お正月には杵で餅つきをする等して楽しんでいる。美味しい食べ物や口から食べて欲しい、動けない・苦しい時以外はトイレで排泄して欲しい、役割を持ち役に立っていると自信を持って過ごして欲しい等、その人らしく生活できるように支援している。いずれは認知症カフェの開催や、共用デイサービス開設を検討したりなど、前向きに頑張っている施設である。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和6年1月31日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議で振り返りを行い理念の確認・実践に努めている。	理念は各棟事務室に掲げ、常に目を通しながら実践の拠り所としている。毎月の職員会議では職員同士意見を出し合い、お互いに確認し合いながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為難しい状況が続いている。少しでも地域の応援になればと協賛等で協力させてもらっている。	感染症対策の為、参加はできなかったが、夏祭り参加の声掛けを貰うなど、地域との関係は少しずつ深まっている。夏祭りや毎日新聞への協賛等には積極的に協力している。	コロナ禍で、紙面などでの繋がりが主だが、感染症に配慮しながら、地域に事業所として発信していく事に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	家族の方からの相談に答え認知症に対する理解を深めてもらえるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為二か月に一度書面での開催としている。意見書にてアドバイス・要望等を貰っている。新年度より対面での開催を予定している。	紙面での開催となっているが、資料は入居者の状況報告や行事内容、研修報告、アクシデント・ヒヤリ報告、Plus便りや食事メニューの紹介等が、写真付きで見やすくまとめられている。意見書も一緒に同封し、返信してもらう事で、出た意見を職員会議で話し合い、サービス向上に活かしている。話し合った内容は次の会議で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括・市役所の担当者へ適宜連絡・相談を行い協力して頂いている。	生活保護者受け入れ時の対応や提出物について等、分からない事や困った時には相談している。地域包括支援センターからの研修にも参加し、協力関係も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間の防犯の為の施錠以外は施錠は行っていない。二か月に一度虐待チェックリストで全職員が自己チェックを行っている。	身体拘束の事例は無いが、「緊急時やむを得ない身体拘束に関する説明書」等必要書類が確認できた。昨年度の外部評価結果をふまえ、保管書類の整理整頓を実施し、いかなる時も直ぐに書類を取り出せるよう改善している。又、社内研修を行い、実施後速やかに回覧し保管するよう徹底している。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の方と成年後見人制度について話し合う機会があり、勉強させてもらうことが出来た。今後も学ぶ機会を設けて知識を深めたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前・契約時と説明を行っており、不明な点があればいつでも答えることが出来るような体制をとっている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに家族代表として二名なってもらっていて、意見を頂いている。その他の家族の方からも意見や要望があれば連絡をもらい対応している。	開設して2年となり、ホーム便りを毎月発行することができている。コロナ禍でも、日中忙しい家族との触れ合いの時間が持てるよう、家族が参加できる花火大会を実施し、入居者や家族に喜ばれた。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月の職員会議・年二回の個人面談にて意見や提案を聞く機会を設けている。少しでも意見のすり合わせが出来るよう努めている。	職員から出された意見は全て代表に伝え、必ず返答が出されている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等での交流で情報交換を行い、質の向上を目指している。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて本人が必要としている事、不安に思っている事を探り、安心できるような環境づくりや声掛けに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の皆さんの不安を少しでも和らげる事が出来るように傾聴・説明等を十分に行っている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、入居者の目線で物事を考えたりと、一緒に過ごす仲間としての時間を作るようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有を心掛けている。家族との繋がりが薄れないよう、適宜連絡を取っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	入居時には携帯電話を使用出来ていた方もだんだんと使いこなせなくなり、施設の電話を使用してもらうようになった。出来るだけ本人の希望に添えるようにしている。	開設後初めて家族参加の行事「花火」を開催し、コロナ禍でも少しずつ関係継続が図れるよう支援している。感染対策を行いながら、法事に参列したり、誕生日に自宅で家族とご飯を食べたり等、希望に添った支援を行っている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業やレクリエーションの際に職員が間に入り声掛けを行い、コミュニケーションが取れるようにしている。助け合う気持ちが自然に持てるような声掛けを行っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった入居者からの相談に応じている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に本人の意向の聞き取りや本人が出来る事の模索を行っている。	入居者や家族がどうしたら喜んでくれるのかを職員間で話し合いながら検討・共有し、方向性を一致させ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りを行っている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケアプランの更新時に見直しをしている。家族・本人の意見を踏まえ、そこにカンファレンスでの職員の意見も入れて計画作成を行っている。	外部ケアマネージャーと計画作成担当者が月1回モニタリングを行っている。家族へは電話や来棟時に意向を確認し、職員から聞き取った意見を反映させて作成している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	24時間パソコンにて介護記録をつけている。ホーム日誌も毎日記録しており、情報共有ができるようになっている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭等に出品できるような作品作りを行っている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療・毎週1回の訪問看護。かかりつけ薬局があり、薬についての疑問や相談がすぐにできる環境にある。主治医で対応出来ない科については主治医指示のもと職員付き添いにて受診している。	入所時に本人や家族の意向を確認しながら、協力医への変更を検討してもらっている。協力医が対応出来ない科については、基本的に職員が受診対応している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で相談。処置やアドバイスをしてもらっている。24時間対応できる体制も整っている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と厚生医療センターの提携が出来ている。入院の際は相談室や病棟との連絡を取り合い情報交換・相談をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族、可能であれば本人も交えて話し合いのうえ意向を聞いている。(年1回の意向確認)	契約時にいつでも変更出来る事を前提とし、終末期ケアについての意向確認及び同意書を交わし、都度家族や本人に意向を確認しながら進めている。協力医や訪問看護の利用により、終末期にホームで看取る事ができる体制となっている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議にて定期的に緊急時の対応を確認を行っている。救命講習を予定している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年に2回行っている。	代表が、災害対策に長けており、消防設備や機器が充実している。非常食も3日分準備されている。3月前半には、業務継続計画が完成する予定である。	代表が作成中である3月に完成予定の業務継続計画について、今後の職員間での共有、実践に期待する。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格や認知症の症状の違いを把握、職員間での共有をし対応している。	入所時の事前アセスメントを共有し、入所後は常に情報を追加し共有しながら一人ひとりの性格や症状を把握し対応している。それぞれが役割を持ち、存在意義を感じてもらえるよう支援している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時の更衣の際の洋服選びの声掛けや髪を整え方等、その人らしくなるように支援するよう心掛けている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューに入居者の希望や好みを取り入れるようにしている。準備や片付けも入居者と共に行うようにしている。	季節の食材を取り入れたり、入居者の希望を組み込みながら、見て楽しめる、食べて楽しめるようなメニュー作りを行っている。感染対策を行いながら、可能な時は入居者と一緒に食材の買い物に行っている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日記録に残している。それぞれのペースで食事が出来るようにしている。体調不良時は代替食にて対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて毎食後の口腔ケアを促している。介助が必要な入居者は職員の介助にて行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせた声掛け・誘導を行っている。トイレでの排泄が出来るような支援を目指している。	トイレでの排泄を基本としている。入所時の状況で決めつけず、チェック表を活用しながら声掛けやトイレ誘導を行う事で、トイレでの排泄が可能になった入居者もいる。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の摂取や水分の摂取、乳酸菌の積極的な提供を行ったり、体操や運動を行い対応している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日については予定として設定しているが、希望により入浴時間の変更・入浴日の変更は臨機応変に対応している。	「風呂は日中に入るものではない、夕方に入るものだ」「今日は午前中に入る気分じゃない」「(昨日も入ったが)今日風呂に入りたい」等一人ひとりの希望にも可能な限り対応している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩・就寝共に入居者のペースで過ごす事ができるようにしている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・かかりつけ薬局の薬剤師に確認して目的や副作用の理解を職員間で共有している。症状に変化があった場合は主治医に報告し指示を仰いでいる。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに適した役割をもってもらえるように日々観察して支援を行っている。日々の生活にメリハリをつける為にレクリエーションの実施にて楽しみを感じてもらったり、気分転換になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス等の感染対策の為、希望の外出支援はほとんど行えていない。春～10月までは週1回の外出買い物に入居者同行で行っていた。偏りがでないように同行の順番を決めて行っていた。	希望の外出支援はほとんど行えていないとことだが、感染対策を行いながら、自宅付近をドライブしたり、受診後には地域を回って帰ってきたりと、出来る範囲で工夫しながら個々の外出を支援している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	同行での外出買い物の際に会計を行ってもらった事もある。また、本人の希望のおやつ等の購入もした。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような作品作りを入居者と共に行い展示している。室内温度管理等、適切な環境づくりを行っている。	入居者と職員と一緒に制作した展示物が、いたるところに装飾されており、季節感満載の共用空間となっている。調湿性能の高い漆喰を使用した真っ白な壁や天井となっており、清潔感がある。職員と利用者が一緒に掃除を行っている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格の合う合わないを考慮し席を決めたりと、穏やかに過ごせるような工夫をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物を持ち込んでもらったり、本人が快適に過ごせるような居室作りをしている。	ベッドやタンス、エアコンが備え付けられている。それ以外は寝具やテレビ、化粧道具等、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。真っ白な壁で、窓やドアも大きく、清潔感がある明るい居室である。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・混乱しない・少しでも自立した生活が送れるような環境作りを行っている。		